

令和元年度(平成31年度) 佐賀県立伊万里商業高等学校・伊万里実業高等学校(定時制課程) 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
生徒一人ひとりの「生きる力・生き抜く力」を育み、経済社会の変化に十分に対応し、社会人・商業人としての資質(知識・技能)を身につけさせ、社会に貢献できる心身ともに健全な生徒の育成を目指す。	<p>《創造そして進化》をスローガンとして、10年後、20年後の生徒たちの姿を想像し、社会貢献ができる人間性豊かな生徒の育成を目指す。</p> <p>① 集団生活の中で、他人を認め、協調して活動する心を醸成する。 ② 基礎学力の向上に努め、思考力・判断力・表現力を磨き、進路実現100%を目指す。 ③ 保護者や地域へ情報を公開し、連携を密にすることにより、地域に信頼される、魅力ある学校づくりに努める。 ④ 部活動や資格取得において、目標に向かって努力し、成し遂げることの充実感、成功体験を通じて、将来の自分に夢と希望を持てる生徒を育てる。 ⑤ 新しいものを創造し、変化していく社会を牽引できる人材を育成し、来るべき社会の構築に積極的に加担できる生徒を育成する。</p>

3 目標・評価

① 集団生活の中で、他人を認め、協調して活動する心を醸成する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○ボランティア精神の育成	豊かな心の育成と社会貢献	・年1回以上、学校周辺の清掃活動を実施し、ボランティア精神を涵養する。	・伊万里市環境課と連携をとり、伊万里市がさらに住みよい温かい町になるよう地域社会貢献に努める。
	●いじめ問題への対応	生徒実態把握の推進	・生徒の人間関係や精神状況を十分に把握し、いじめの発生を未然に防ぐ。 ・いじめが発生した際の対応を迅速に行う。	・いじめアンケートを実施し、いじめの萌芽と思われる状況を見逃さず迅速に対応する。 ・全職員が生徒の現況を把握できるよう、情報交換を密にする。 ・保護者との連携により、家庭での状況にも十分な注意を払う。
	●心の教育	教育相談体制の充実	・年2回、教育相談週間を設け、生徒と教職員の信頼関係作りを図る。 ・年2回以上、スクールカウンセラーが参加する職員連絡会の機会を作る。	・教育相談週間前に「生活に関するアンケート」を実施し、面談時の生徒理解資料として担任へ情報提供を行い、効果的な教育相談の実施を図る。 ・教務と協力して職員連絡会にスクールカウンセラーが参加する機会を確保し、職員とスクールカウンセラーの連携作りに努める。
		心の健康づくり	・年1回以上、生徒理解のための職員研修を実施する。 ・教育相談についての情報発信に努める。	・スクールカウンセラーと連携し、職員研修の機会を設ける。 ・日報や「ほけんだより」で、スクールカウンセラー来校日や教育相談についての情報を発信する。

② 基礎学力の向上に努め、思考力・判断力・表現力を磨き、進路実現100%を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	学び直しと家庭学習の充実	・授業では、中学校での学習内容の復習や基礎的内容を中心に、生徒が授業に関心を持って取り組めるようにする。 ・学習の遅れや苦手意識を克服するために、基礎基本を丁寧に指導し、状況に応じて個別指導を行う。	・学校行事を精選し、授業時数を確保する。 ・生徒の理解度に応じた教材や指導方法を工夫する。 ・基礎学力を高めるため、基礎基本を重視した指導を行い、効果的な教育相談の実施を図る。 ・学習に対する意識向上を図る。
		専門教科指導の充実	・指導方法の創意工夫により、「できる(自信をつける)授業」を展開する。 ・各種検定資格試験の合格者を90%以上にする。	・チームティーチングによる個別指導をする。 ・基本練習を確実に行う。 ・達成度を確認させ、目標を明確にしていく。
	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	学習効果を高めるICTの活用	・生徒の理解度に応じた教材や指導方法を工夫する。 ・ICT機器の活用により、生徒の学習に取り組む意識を高める。	・学校行事を精選し、授業時数を確保する。 ・授業への興味・関心を高めるため、学習コンテンツ配信サービスやデジタル教科書、オンライン教材などを活用する。 ・学習用パソコンや電子黒板で利用できる教材を作成し、授業に活用する。
	○進路指導	希望進路の実現	・卒業予定者の進路決定率を100%にする。	・年8回基礎学力アップテストを実施して、基礎学力の向上をはかる。 ・就労体験を通し、社会性を身に付けさせる。 ・全日進路指導部および、ハローワークと連携し、進路情報を収集して、生徒に提供する。
学校運営	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	情報活用能力の育成	・各教科科目の授業において、ICTの活用を推進する。 ・ICTを活用した授業に関する校内職員研修を実施する。	・各教科科目の授業において、学習用パソコンを活用した個別学習を推進する。 ・学習用パソコンと電子黒板を連携させた協働的な学びを推進する。
	○教職員の資質向上	授業改善	・「わかりやすい授業」を目指し、授業内容の精選と授業の進め方などを生徒の実態に合わせて常に見直ししていく。 ・生徒が授業に関心を持って取り組み、学習することに自信が持てるように指導する。	・年2回、生徒による授業評価を実施して、授業の改善につなげる。 ・理解度を確認するために、学習用パソコンを利用したアンケートなどを実施する。

③ 保護者や地域へ情報を公開し、連携を密にすることにより、地域に信頼される、魅力ある学校づくりに努める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営		本年度の重点目標の周知	・教職員、生徒、保護者に周知し、認知率80%以上を目指す。	・職員には職員会議、職員連絡会等で周知を図る。 ・生徒には集会やHR活動において周知を図る。 ・保護者には後援会総会や個人面談で説明し、学校便りやホームページ等で取組状況を報告する。
	○学校経営方針	本校教育活動への理解と啓発	・生徒、保護者、学校評議員等へ学校情報を発信する。 ・地域の中学校(生徒・保護者・職員)へ学校情報を発信する。 ・保護者への学校行事の連絡を徹底し、後援会総会の保護者出席率を50%に近づける。	・学校便りを発行し、ホームページの更新を行う。 ・一日体験入学を実施する。 ・中学生や保護者、中学校教員を対象とした公開授業を実施する。 ・保護者宛の文書が確実に届くように、スクールNEWSメールを活用する。

④ 部活動や資格取得において、目標に向かって努力し、成し遂げることの充実感、成功体験を通じて、将来の自分に夢と希望を持てる生徒を育てる。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	業務評価表を活用した職員の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> 学校の重点目標を踏まえた目標を設定する。 業務評価表に掲げた具体的目標の自己評価を、全職員が「A」以上にする。 自己の指導力向上が生徒の育成に確実に結びついているという意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己目標と達成状況を自己点検する機会を設ける。 自己の目標達成が生徒の育成に貢献しているかどうかという視点をもつ。 部活動の期間は全職員で指導にあたり、生徒の参加意欲を高める。 資格試験を指導する際は、担当者間で指導法について情報を共有し、指導力向上を図る。
教育活動	●志を高める教育	夢や目標に向かって努力しようとする気持ちを育む教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒全員が集団的行事に参加し、それぞれが励んだ思いを述べられるようにする。 在学中、少なくとも1回は生活体験発表に挑戦することを勧める。また、生活体験発表県大会には生徒全員が参加することで、他者の思いを理解し、自分の目標を深く考えられる機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 定通体育大会に仲間と助け合い、勝利を目指して練習に励むことができる環境を整える。 文化祭等生徒会行事において、生徒の意志を尊重しながらも、学校の方針等も十分に理解させ、主体的に臨めるよう配慮する。 自分の思いを、言葉や文字にすることで夢を実現するための勇気や見通しが持たせられるよう指導する。
	○進路指導	特性に応じた指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の特性を理解して、長所を伸ばす環境づくり、指導を行ない、進路目標達成につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学校生活の様子を職員連絡会等で情報交換し、共通理解を図る。 部活動の期間中には、集団の中でのリーダー性や協調性などの特質を見出し、その個性を發揮させる環境づくりに努める。
⑤ 新しいものを創造し、変化していく社会を牽引できる人材を育成し、来るべき社会の構築に積極的に加担できる生徒を育成する。				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○学校の個性化	就労による勤労観の育成	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な自立を目指して、就労への意識を高める。 就労率を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 年金、労働関係法規に関する講義を受け、社会的な自立の基本を育てる。 未就労生徒に就労先を紹介する。 生徒の就労先を訪問し、就労状況を把握して、職場への定着を図る。
		進路指導体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現のための学力、知識および資格を身に付けることができるように指導・支援を行い、学習や資格取得に向けた生徒の意欲を高める。 不登校経験者および発達障害の生徒が、社会に適應できる力を養う環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒情報の共有により、あらゆる教育活動を通して、全職員が協力した指導体制をつくる。 不登校経験者および発達障害の生徒の特性・特徴を理解して、必要なサポート体制をつくる。 少人数クラスの特性を生かし、個に応じた指導・支援を行う。
	○基本的習慣の確立	社会的マナーの習得	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶を励行する。(来客や職員に対して生徒全員がきちんと挨拶ができることを目指す。) 場にふさわしい言動ができるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や集会等、あらゆる機会を捉えて、挨拶等のマナー指導を行う。 職員間でも挨拶や適切な言葉遣いを心掛け、率先垂範する。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> 給食の喫食率75%以上を目標とする。 食事と健康の関わりを意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 喫食調査を毎日実施し、年間の喫食率が100%の生徒には「健食賞」を授与する。 給食室に来て、食べない生徒もいるので、講話を通して食事の大切さや食に関する興味関心を高める。また、魅力ある献立の工夫をする。 面談を行い、食べ物の嗜好や朝昼夜の喫食状況や食事内容、食物アレルギーの有無などの情報を収集するとともに、規則正しい食事の大切さを認識させる。 「給食だより」を毎月発行し、生徒の自立を支援するために食事のマナーや食に関する意識を高めるとともに、保護者との連携を図る。 地場産物や旬の食材を使用したり、郷土料理を紹介する。
		健康管理能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関心を持たせ、健康管理に対する意識を高めさせる。 保健室の利用率(一人当たりの年間平均利用回数)7.0未満を目標とする。 歯科保健の充実にも努め、DMFT指数(一人当たりの歯のう歯率)「2.00」未満を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 出席状況や健康観察から問題を抱える生徒を早期に把握する。面談に努め、心身の健康管理能力を高める支援を行う。 保健室を利用する生徒で、心身の健康問題等で管理を要する生徒の早期発見に努め、関係職員や保護者との連携を図る。 給食後の歯磨き指導を徹底し、学校歯科医と連携を図り、歯科保健講話を実施する。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務改善のための工夫と働き方改革推進	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善のための工夫として、校内LAN、SEI-NETをさらに有効活用する。 業務効率化により、生徒と向き合える時間を増やし、時間外労働の時間を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料のやりとり、職員間の連絡、統計や文書などを、校務用サーバに保存し、情報の共有化を図る。 SEI-NETを利用した出席統計、成績処理、指導要録の作成を行い、業務の効率化を図る。 上記2項により、生徒の個別指導に対して、ゆとりをもって臨める体制を構築する。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目